

難聴・言語障害通級指導教室 自立活動学習指導案
一側音化構音のある児童の指導一

1 児童の実態

- (1) 児童名 A ○○小学校 1年
- (2) 言葉の状態 ・側音化構音（イ列音/イ、キ、シ、チ、ニ、ヒ、リ、ギ、ジ、デ/とその拗音、
/ケ、ゲ/が歪む）
- (3) 生育歴 省略
- (4) 家族構成 省略
- (5) 現在の様子 ・構音に関して歪み音があり、話している内容が伝わりにくいことがある。
・会話を好み、日々の出来事をよく話している。
・在籍学級では、ぼんやりしていることが多く、集団のリズムに乗れないとして個別の支援を受けている。書字が苦手で、字形のバランスがとりにくい。
・通級でも集中時間は短めで、姿勢が崩れてしまうことが多いが、一生懸命課題に取り組もうとしている。

2 指導目標

- ・児童と信頼関係を築き、構音の改善に向けて意欲付けを図る。
- ・正しい構音操作を身に付けさせ、課題音について系統的に練習し、日常生活の中で生かせるようにする。
- ・保護者や学級担任との連携を密にし、練習内容について共通理解を図る。

3 指導計画（本時9時間目）

時数	指導の内容	○指導の方法・指導上の留意点
1	1 ラポートの形成	○構音検査を行い、指導方法や内容を設定する。 ・学校での出来事や児童の好む話題で会話をする中で、信頼関係を確立し、毎時間リラックスした状態で練習が始められるようにする。
2～ 24 本時 9/64	2 構音操作の改善 (1)口唇周り と舌の脱力、 呼気出し	○上下口唇及び口唇周りが脱力された状態を作る。（ポワンのお口） ○平らで脱力した舌を下口唇に乗せ、静止・維持させる。その際、舌の両端は常に口角に付いている状態を保たせる。（ホットケーキのペロ） ○舌出しのまま、呼気を舌の正中から静かに長く出せるようにする。（かぜだしθ）※θ：無声（歯摩擦）音 ・これらは正しい構音操作ができるようになるための基本の練習なので、スモールステップで十分に時間をかけて取り組ませる。 ○舌を口中に入れて、呼気を舌の正中から静かに長く出せるようにする。
25～ 36	(2)母音/イ/の改善	○歪み音改善の土台である母音/イ/を改善する。 ・舌操作は、(1)の練習を意識させながら進める。 ・〈単音節→無意味音節→単語→短文〉の段階を追って改善する。
37～ 60	(3)子音の改善	○子音/シ/から指導を開始し、/ジ/、/チ/と進める。 ・舌操作は、(1)の練習を意識させながら進める。 ・〈単音節→無意味音節→単語→短文〉の段階を追って改善する。 ○その他の子音は、改善の状況を見ながら取り上げていく。 ・舌の動きの小さい音から先に取り上げるようにする。
61～ 64	3 改善した構音の般化	○改善した構音が、音読や自由会話の練習等をとおして日常会話で安定して使えるようにする。

4 本時の学習

(1) 目標

- ・脱力した舌を下口唇に乗せ、静止・維持できる。(ホットケーキのべろ)
- ・脱力した舌出しの状態で、短い呼気を出すことができる。(かぜだしθ)

(2) 展開

学習活動	○指導上の留意点 ・支援 ★評価	備考
1 始めの挨拶をする。 ・日付の記入	○挨拶の後、家庭での練習や学校の様子について児童と会話をしながら確認する。 ・楽しく始められるようにする。	連絡ファイル
2 「ポワンのお口」を練習する。 ※唇を脱力した状態	○会話の中では、構音の状態を観察する。 ○脱力された舌が静止して維持できているか確認する。 ・頬を触って、口周辺の脱力や噛み合わせを意識させる。 ・姿勢が崩れたら、正しい姿勢のポイントを確認する。	ノート
3 「ホットケーキのべろ」を練習する。 ※舌を脱力して平らにした状態	○口周辺が動かないように、下口唇に舌に乗せ、静止・維持できるか確認する。 ・下口唇が下がりすぎたら、指で支える。 ・鏡で、開口の大きさや舌のポジションを確認する。 ・言葉での指示がなくてもできるように手で合図を出す。 ・口角を引くときは、指で口角を支える。 ★口周辺を脱力した状態で舌を下口唇に乗せ、静止・維持することができているか。(観察)	鏡
「ホットケーキのべろ」で短い息を出そう		
4 「かぜだしθ」を練習する。 ※無声音（摩擦音）の練習	○口周辺が動かないように、舌出しのまま、呼気を舌の正中から静かに短く出させる。 ・下口唇が下がらないように、指で支える。 ・頬が膨んでしまったら、指で触れて気付かせる。 ・正しい呼気の流れを説明し、頬が膨んでしまう理由を本児や保護者に説明する。 ・鏡で頬の膨らみを見て、気付くようにする。 ★脱力した舌出しの状態で、短い呼気を出すことができたか。(観察)	
5 宿題の確認をする。	○家庭での練習の仕方、ポイントを保護者にも伝える。 ・保護者に補助の仕方を実際にやってもらう。 ・練習のポイントや声掛けの仕方を具体的に伝える。 ・連絡ファイルにも宿題について記入する。	連絡ファイル
6 終わりの挨拶をする。	○気持ち良い挨拶ができるようにする。 ・頑張ったことを称賛したり、宿題を頑張るように励ましたりする。	

(3) 評価

- ・口周辺を脱力した状態で舌を下口唇に乗せ、静止・維持することができたか。
- ・脱力した舌出しの状態で、短い呼気を出すことができたか。